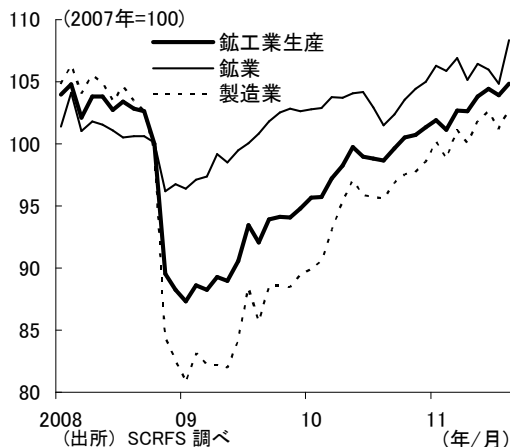


ロシア経済は着実な回復

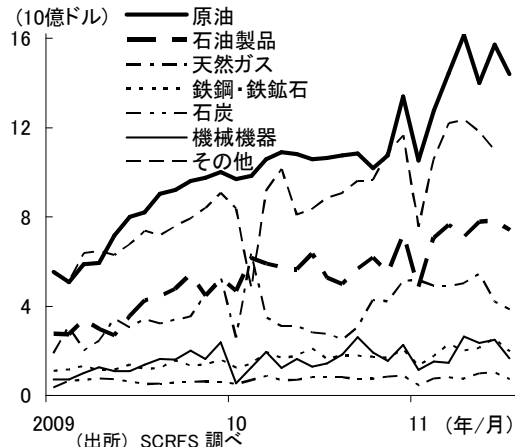
～ エネルギー価格上昇下、資本流入が再び増加 ～

- (1) ロシア経済は新興国を含め各国対比リーマンショック後の立ち直りが緩慢。しかし漸く本年8月、鉱工業生産がリーマンショック直前のピーク、2008年2月水準を凌駕（図表1）。鉱業セクターは本年に入り一進一退。回復の原動力は製造業の生産持ち直し。月毎の変動は残るものの、製造業生産は総じて10年初来の増勢維持。
- (2) ロシア経済はエネルギー・資源依存型経済。主要品目別に輸出構成をみると、原油が全体の3分の1、石油製品が2割弱。両者で5割。さらに天然ガスが1割強、鉄鉱石・鉄鋼が5%。石炭を含めると全体の7割。機械機器は5%弱で鉄鉱石・鉄鋼とほぼ同規模。昨年末以降の価格上昇を受けて原油の輸出金額が際立って増加（図表2）。さらに石油製品も輸出額増。海外からの所得流入が増加。
- (3) 経済好転を見据え、このところ資本流入が再び盛り上がり（図表3）。リーマンショック後の推移を振り返ると、まず08年半ばから対内直接投資の減少に加え、対内証券投資が逆流。09年初以降いずれも低調に推移。しかし09年10～12月期の58億ドルを底に対内直接投資が増加。11年4～6月期は141億ドルへ。設備投資に動意。
- (4) 景気回復を受けて雇用情勢が好転（図表4）。月毎の振れが大きいものの、雇用者数が本年入り後一段と増加する一方、失業率は09年初の9%弱から11年春以降6%台半ばで推移。労働需給の逼迫が次第に進行。名目賃金の前年比上昇率はそれまでの10%前後から、今春以降13%前後へ。所得雇用環境の改善を映じて個人消費も堅調な推移。このところエネルギー価格の変動大。しかし飛躍的な新興国の経済成長下、需給緩和は期待薄。エネルギー価格が高値圏で推移するなか、ロシア経済は今後も回復傾向を続け4%成長を迫る公算大。

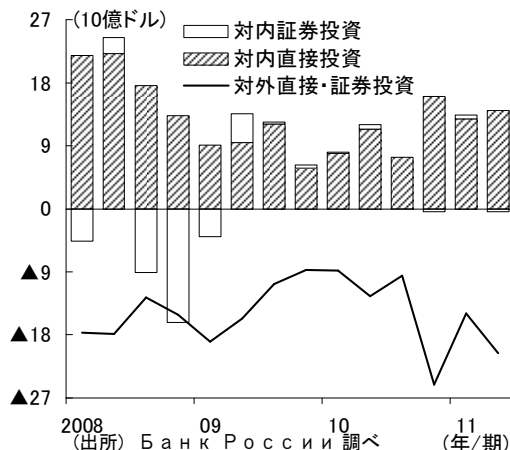
（図表1）ロシアの鉱工業生産（季調済）



（図表2）ロシアの主要品目別輸出金額



（図表3）ロシアの内外直接・証券投資



（図表4）ロシアの失業率と雇用者数（季調済）

